

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年2月26日
函館市立大森浜小学校

1 本年度の重点教育目標

心豊かにたくましく 自らの未来を創り出す子 (学校教育目標) チャレンジ はまなすの子 はりきって登校 まじめに学習 なかよく活動 すっきり下校 (キャッチフレーズ)
--

2 本年度の取組の重点

1 はりきって登校プロジェクト	2 まじめに学習プロジェクト	3 なかよく活動プロジェクト
4 すっきり下校プロジェクト	5 未来を見据えたふるさと教育	6 未来を見据えたインクルーシブ教育
7 未来を見据えたキャリア教育		

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の度合いの評価	主な意見 (改善策など)
はりきって登校	学校は個々の児童に応じた居場所をつくること ができたか。	a	・サポートルームを活用することにより、 個々の児童に応じた適切な学習環境を整備できた。		A	・サポートルーム (不登校予防) の活動が児童にとって良い方向になったと思う。
	児童が元気よく登校できたか。	a	・地域や教職員に対し、明るい態度で挨拶できる児童が増えた。 登校時の晴れやかな表情から、 学校生活への意欲の高さが伺える。	A	A	・健康的な面が良いと思う。
まじめに学習	学習のきまりと家庭学習の相乗効果による習意 欲向上ができたか。	b	・学習のきまりの定着に個人差があるため、 家庭との連携を密にし、全児童が 自学自習に取り組めるよう計画的な 動機付けを強化する。	A	A	・専科指導がうまくいっているため 続けてほしい。
	専科指導や交換授業による児童の学力の 向上ができたか。	a	・専科教員の高度な指導により児童の 興味・関心が高まり、各教科の専門 的な技能や知識の習得、および学習 意欲の向上が図られた。	A	A	
なかよく活動	道徳指導の充実を図り、いじめや不登校の 未然防止などの適切な対応ができたか。	b	・道徳科で学んだ価値を、日常の人間 関係で実践できるよう具体的に指導 する。自己肯定感を高める活動を通 じ、未然防止を徹底する。	A	A	
	集団的な関わり (協働的な学び) の場の 確保ができたか。	a	・授業内での対話を通じ、他者の視 点に気づく場が増えた。集団の中 での自分の役割を意識し、協力を して学習に取り組む姿勢が定着 した。	A	A	・歌などを通しての学習発表会 などが良い印象を受ける。
すっきり下校	教育相談週間やスクールカウンセラーの 活用など校内や関係機関との相談体制 の整備ができたか。	a	・関係機関やS・Cとの情報共有を密 にし、組織的な対応体制を構築 した。多角的な助言により、個々 の実態に応じたきめ細かな支援 ができた。	A	A	・必要な要員を集める努力を感 じられる。
	一人一人と向き合う時間を確保し、それ ぞれのニーズに応じた指導体制が できたか。	a	・端末を活用した個別学習により 個別の課題把握と即時指導が 実現した。支援員等との連携 により、多角的なニーズへの 対応ができた。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。